

子どもの権利に関する条例検討委員会中間報告に関する理解啓発の授業実践について

武蔵野市教育委員会指導課

1 小学校5年生「特別の教科 道徳」の授業

【授業の内容】

- ・道徳科の「真理の探究」について考える授業。
- ・「権利って何?」「どんな権利があるの?」について、対話を通して深く考えていった。
- ・子どもたちからは、「人がもっている自由」「優先的に得られるもの」「生まれてきて人にあるもの」「守らなくてはいけないきまり」などの意見が出された。
- ・授業の振り返りでは、「権利がないと生きていけない」「自分たちをよりよくしていくのが権利」などの考えが発表されていた。
- ・授業の最後に、子どもの権利に関する条例（中間報告）を見て感じたことを自由に出し合った。
- ・子どもたちは、「いじめを止めること」「子ども相談」について意見を述べたい様子だった。



＜「こどものけんりってなあに？」を見て感じたことを話し合っている様子＞

2 小学校6年生「社会科」の授業

【授業の内容】

- ・社会科「子育て支援の願いを実現する政治」にて公園づくりについて考える授業。
- ・子どもたちは、どんな公園がいいか自分で考え、意見交流した。「楽しく遊べる、安全・安心、運動できる」などの考えが出た。
- ・その後、「市民の人たちはどういう公園がいいと思っているか」「市役所の人、どのようにして市民の意見を取り入れているか」について考えた。
- ・最後に、子どもの権利に関する条例（中間報告）の内容を見て、自分にほしい権利について考えた。
- ・子どもたちからは、「安心して暮らせて遊べる権利」「子どもも働ける権利」などの考えが出た。



＜「こどものけんりってなあに？」を見て、自分にほしい権利を考えている様子＞

3 中学校1年生「特別活動」の授業

【授業の内容】

- ・はじめに、「条例とは何か?」について考えさせ、市のルールであることをおさえた。
- ・生徒からは、「京都市では景観を維持するために、コンビニの外観の色に制限がある」などの具体的な条例の例が出されていた。
- ・その後、武蔵野市でも子どもの権利に関する条例が制定されようとしていることを教師が説明し、中間報告の内容で意見を述べたい生徒はパブリックコメントに参加していた。